

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	あかぼうしせん 赤帽子線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	つるぎ町(旧一字村)																	
事業概要	【目的】 ・当路線は、剣山の北部の赤帽子山から丸笹山へ延びる稜線の北側斜面一帯の広大な森林を対象に、森林整備を行う上での基盤となる施設を整備するもので、森林の有する多面的機能の持続的発揮や中山間地域の雇用の増進を図ることを目的とし、ひいては地球温暖化防止や循環型社会の形成に役立つものと期待される。 ・穴吹川と祖谷川流域が最短距離で連絡されることで、観光道や災害時の迂回路としての役割を担う林道として開設する。また、穴吹川と祖谷川流域が最短距離で連絡されることで、観光道や災害時の迂回路としての役割を担う。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 20%;">1,217ha</td> <td style="width: 50%;">[人工林面積:774ha (64%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>171戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>3.5～4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>9,600m</td> <td>(うち平成25年度末の供用予定延長 8,553m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,800,000千円</td> <td>(うち平成25年度末の実施予定事業費 1,558,055千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>昭和61年度～平成29年度</td> <td>(32年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	1,217ha	[人工林面積:774ha (64%)]	受益戸数(森林所有者数)	171戸		幅員	3.5～4.0m		計画延長	9,600m	(うち平成25年度末の供用予定延長 8,553m)	総事業費	1,800,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 1,558,055千円)	事業予定期間	昭和61年度～平成29年度
利用区域面積	1,217ha	[人工林面積:774ha (64%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	171戸																			
幅員	3.5～4.0m																			
計画延長	9,600m	(うち平成25年度末の供用予定延長 8,553m)																		
総事業費	1,800,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 1,558,055千円)																		
事業予定期間	昭和61年度～平成29年度	(32年間)																		
評価	【事業の進捗状況】 当路線は昭和61年に着工し起点側から開設していたが、昨年度事業効果と期間短縮を図るため全体計画ルートを見直し、計画延長を11,560mから9,600mに変更した。平成25年度末で進捗率は89%となっている。計画どおり完成見込みである。 <div style="text-align: right;">[進捗率:89.1%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 当路線の供用されている区間では作業道が整備され、高性能林業機械による間伐システムが盛んに行われており、現在は「次世代林業プロジェクト」の目標達成に向け、平成21年度から平成24年度までに延べ26haの森林整備を実施している。今後も開設計画のある広沢及び葛籠地区においても、森林経営計画が認定され搬出間伐の計画がされている。																			
	【社会経済情勢の変化】 ・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。 ・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。 ・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。 ・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。 このような中、当路線上部には国有林を有していることから、民有林と国有林の効率的な森林施業を目的とし、新たな取り組みとして民有林と国有林が連携して、路網整備と森林整備を実施すべく協定を締結し、積極的な森林施業に取り組んでいる。																			
項目	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																			
	【事業効果の発現状況】 これまでに供用開始した区間を利用して、昭和61年度から平成24年度までに、延べ696haの森林整備が実施されている。今後も、供用区間が増加するに伴い、広沢及び葛籠地区を中心に「次世代林業プロジェクト」により、さらなる森林の整備や保全のための施業が進んでいく見込みである。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.61 (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
	【受益者・関係機関の意向】 地元つるぎ町をはじめ森林所有者等は、停滞している森林施業の活性を図り、地域産業の振興に寄与すること、また、災害時の国道県道等の迂回路として活用できる当林道の早期完成を強く要望している。																			
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																				